

-
- ・所在地：高知県四万十市
 - ・活動名：四万十川流域の文化的景観に係る景観教育・普及事業
 - ・応募者：四万十市
-

・活動の概要：

四万十市においては、市自分たちの暮らす地域や町について、そこに暮らす人々が語り、誇りを持って町を育てていく仕組みを再生したいとの思いから、国の重要文化的景観に選定されたことを機に、文化的景観という新しい切り口から身近な景観に眼を向けることで、受け継がれてきた暮らしや知恵、町のかたちなどを住民が再認識する機会の創出に取り組んでいる。

この取組みの一環として、小中学校への出前授業の実施や、一般向けの文化財巡りなど、既存事業を活用した普及啓発を図る他、小学校と連携して児童とともにまち歩きやワークショップの開催により地域を歩くマップづくりを行っている。児童の目線と文化財の視点を融合させた地図は、今後地域学習や観光に活用される予定になっている。



子供たちオススメの場所へデザイナーを案内した様子。小さな公園にもそれぞれの楽しみ方があった

・審査講評：

国の「重要文化的景観」に選定された四万十川流域の豊かな住民の暮らしや生活の知恵、町のかたちを小学校の児童に対しては出前授業、また地域住民に対しては文化財めぐり等の継続的な景観普及事業を四万十市が行っていることは高く評価できる。特に年間7～8回の総合学習の時間を利用して、子ども達に好きな場所の発見や、川での漁や遊びを体験してもらい、さらに地元の大人やお年寄りに地域の昔話を聴くなどのワークショップを行い、魅力的な「マップづくり」を実施していることは、大変楽しくかつ有効な教育プログラムといえる。またマップのデザインに関して、地図の役割をデザイナーとコミュニケーションしながらいっしょに考え、最終的に子ども達の描いたスケッチやイラストを含む独創的なマップが完成していることも大変興味深い。今後このマップを利用した様々なグリーンツーリズムの機会や文化景観を学ぶ場が増えることに大きな期待を寄せたい。（卯月）